



勝利の女神だね

小さなピカソたちの夢—本当にあった話だよ—

ちい おんな こ
小さな女の子だった。

う
生まれてからずっと寝たきりである。

かあ いっしょうけんめい おんな こ せわ
お母さんは一生懸命に女の子の世話をするけれど、

つか は
ときどき疲れ果ててしまう。

くるま お ある
車いすを押して歩いていると、

み
ジロジロ見られる。

あいじょう た
「愛情が足りないから

こ しょうがい
子どもの障害がなかなか良くならない」

しん い
と親せきに言われる。

わたし むすめ よ き
もう、私も娘もこの世から消えてなくなりたい……

おも のうり なんと
そんな思いが脳裏をかすめていくことが何度かあった。

だれ し
誰にも知られないようにしていたけれど。



お兄^{にい}ちゃんはやさしくて、
思い^{おも}詰^つめたお母^{かあ}さんの背^せ中^{なか}をさすってくれた。
「だいじょうぶだよ。お母^{かあ}さん。僕^{ぼく}がついている」
その優^{やさ}しさ^{なさ}に何^{なん}とかお母^{かあ}さんは支^さえられて、
重^{おも}い障^{しょう}害^{がい}のある娘^{むすめ}を^{かか}抱^{かか}えてこ^ここま^まで生^いきてきた。

そのお兄^{にい}ちゃんが時^{とき}々^{とき}、小^{ちい}さな声^{こえ}で^{ねが}お願^{ねが}いをする。
「学^が校^{っこう}に^いだけ^{だけ}は(妹^{いもうと}を)連^つれて^つこ^こないでね」

いじめによる子^こども^{ども}の自^じ殺^{ころ}も各^{かく}地^ちで相^あ次^{いつ}いでいる。
学^が校^{っこう}と^こいう子^こども^{ども}社^{しゃ}会^{かい}で生^いきて^いくのは大^{たい}変^{へん}だ。
もしも重^{おも}い障^{しょう}害^{がい}の妹^{いもうと}を^み見^みられたら、



いじめや冷やかしの対象になるかもしれないと
心配だったのだろうか。

お母さんはお兄ちゃんの気持ちが痛いほどわかる。

「そうだね。連れていかないから安心して」

そう言いながらお母さんは、

娘がお兄ちゃんの学校ではないことにされている、

ということにさみしさを感じていた。

お母さんは、その気持ちをお兄ちゃんに

気づかれないように必死だった。

お母さんは妹が不憫でしかたがなかった。

たしかに重い障害はある。だけど、この子は生きている。

存在していないことにしなくたっていいじゃないか。



ある日、六年生になったお兄ちゃんが

ソフトボールの選手に選ばれた。

もうそろそろ大丈夫じゃないかと思い、

妹にも兄の活躍する姿を見せたくて、お母さんは決心を固めた。

車いすに妹を乗せて学校へと応援に行った。

お兄ちゃんの気持ちを考えて、

隠れるようにして応援していたのだけれど。

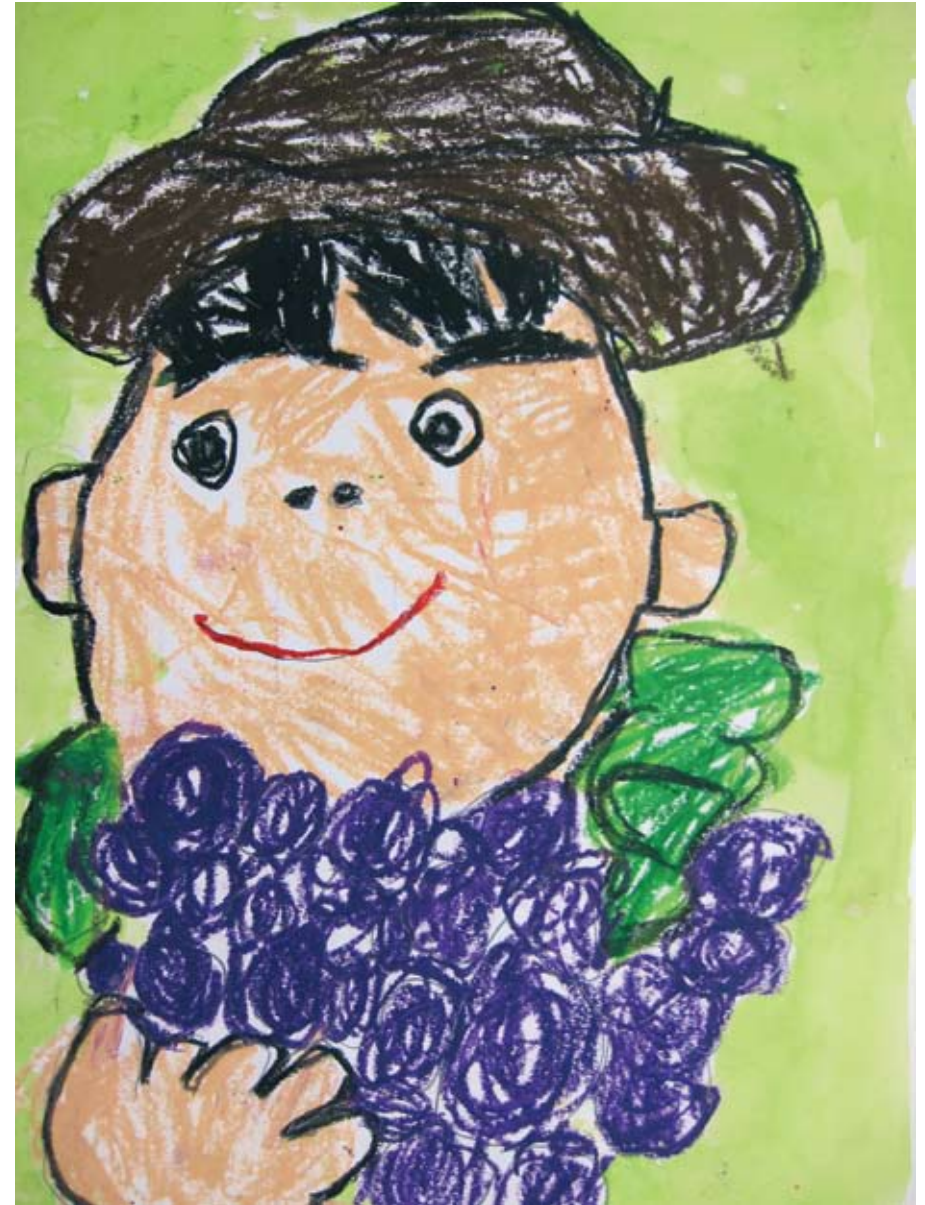
そんなお母さんの気持ちが天に届いたのか、

お兄ちゃんのチームは勝った。

「お兄ちゃん、がんばったね」。

お母さんが妹の車いすを押し帰ろうとしたときだった。

チームメイトたちのざわめきが聞こえてきた。



「あの^{くるま}車いすの^{おんな}女の子は^こいったい^{だれ}誰だ？」

「^{いっしょ}一緒にいる^{ひと}人は、^{かあ}あいつのお母さんじゃないか？」

「あれ？ ^{いもうと}あいつに妹なんていたのか？」

^こ子どもたちは^{ちか}だんだん近づいてくる。

^き気が付いたときには、

^{かあ}お母さんと^{いもうと}妹は^こ子どもたちに^{かこ}囲まれていた。

^{くるま}車いすの中の^{なか}小さな^{ちい}女の子^{おんな}に、^こ

^{にい}お兄ちゃんの^{どうきゅうせい}同級生たちの^{しせん}視線が^{そぞ}注がれる。

^{かあ}お母さんの^{しんぞう}心臓の^{こどう}鼓動が^き聞こえてきそうだ。

^{がっこう}「学校にだけはつれてこないでね」と^い言われていたのに……。



そのとき、じーっと見ていた子どもたちの何人かが
手をのばして、妹の頭を撫でて言ったという。

「勝利の女神だね」

「ぼくたちはこの子が応援してくれたから勝てたんだよね」

「そうだよ、そうだよ」

「勝利の女神だよ。ありがとう」

なんで子どもたちはそんなことをしたのだろうか。

妹を隠さなければいけないと思っている

お兄ちゃんの気持ちが、まわりの子どもたちに伝わり、

なんとかしてあげなきゃと思ったにちがいない。



しかし、どうやって「大丈夫だよ」という気持ちを
伝えていいのかわからず、妹を見に来たんだ、きっと。
そして、直感的に頭を撫でて「勝利の女神だね」なんて
言葉が出てきたのかもしれない。

今の子どもたちは「生きる力が希薄だ」と言われている。
いじめによる自殺が相次いでいる。
不登校、引きこもり、リストカット、ニート……、
息苦しい現実の中でもがいている
子どもたちの姿が思い浮かぶようだ。

いったい、生きる力とは何なのだろうか。



おな しだい おな ちいき い なかま
同じ時代、同じ地域で生きている仲間どうしが、
いた かな ふ あ ころ なか かね ひび あ
痛みや悲しみに触れ合って、心の中の鐘が響き合い、
なか しぶん せんざいかん
そういう中で自分の存在感をしっかりとつかんでいく。
あいて せんざいかん みと
相手の存在感も認める。

たが しぶんじしん こうてい
そうやってお互いに自分自身を肯定し、
あい
愛していくことができるのではないだろうか。
たいけん こ い ちから
そういう体験が子どもたちの生きる力をはぐくんでいく
えいようぶん
栄養分になるのではないのだろうか。

とき にい
その時、お兄ちゃんがどこにいて、
かお かの
どんな顔をしていたのか、お母さんはおぼえていない。
なみだ み
涙でかすんで見えなかったから。



この絵本の作品・作家



「オレンジたくちゃん」
富山県高岡養護学校中等部 3年
金田 拓也



「星空のカーニバル」
北九州市立小倉南特別支援学校高等部 2年
大場 勇也



「私の心の形」
宮崎県立赤江まつばら支援学校高等部 3年
渡部 智穂



「風車と犬」
北海道白樺高等養護学校 3学年
北俣 利奈



「みてみて～いっぱいとれたよ♡」
茨城県立北茨城養護学校小学部 3年
豊田 翼



「ノウマンゾウとほく」
長野ろう学校中学部 3年
宮澤 鴻生



「ほくのおじさい」
埼玉県立春日部特別支援学校高等部2年
松本 和樹



「ハンモックゆらゆら」
北海道南幌養護学校高等部 2年生
西村 卓也



「ねこさんとダンス」
静岡県立富士特別支援学校 中学部B課程2年
早房 洋佳

発行元

NPO法人 Pand A - J

東京都千代田区飯田橋2-7-1 三政ビル2階

PandA-J研究所

URL : www.panda-j.com